

石薬師地区まちづくり計画書

<計画期間>

2024～2027年度
(令和6～令和9年度)

石薬師地区明るいまちづくり協議会

令和6年3月27日

令和6年度～9年度 まちづくり計画策定にあたり

「鈴鹿市総合計画2023」と整合させるため、総合計画の後期基本計画の期間である令和2年～令和5年度までの4年間の地域計画を策定し展開してきた。

地域計画のテーマとして住民アンケートを実施し、その結果から住民満足度向上の為のテーマを設定、8専門部にて実行計画を作成し取り組んできた。

その結果をふまえ

「鈴鹿市総合計画2031」基本構想の前期基本計画の期間に整合させる為、令和6～9年度の地域計画を策定する。

令和2年度～5年度 活動総合評価

◆反省内容

- ①笑顔と活気があふれるまちに向け住民の交流を促進するイベント、高齢者対象の事業等を計画したがコロナウイルスの発生により安全を優先し、多人数が集まる行事等については令和2～4年度の3年間開催を断念した。
- ②月次役員会で各部門の月次の実行・計画内容を発表し情報共有を行っているが部門間の協力体制が見られない部分があった。
- ③部門においては計画したテーマが完結されていないものがある(・活動資金の確保 ・防災マップの作成 ・空き家の活用 等)

◆成果内容

- ①小役員会・役員会を毎月実施し各部門間の情報及び行政や関連部門の情報を共有をする体制が確立された。
- ②内規、要領、等を追加設定し石明協としての組織活動がより確立された(・報償金等に関する内規 ・慶弔事内規 ・視察研修要領)
- ③石明協だよりの定期発行、石薬師の歴史再発掘冊子発行、SNS活用による石明協ホームページの立ち上げ等により石薬師住民をはじめ他地区へも情報を発信する体制が確立できた。

※上記の活動総合評価を反映し、やり切れなかったテーマの継続展開、時代のニーズに合った新規テーマの設定を行い令和6～令和9年度までの各専門部の地域計画を以下に策定した。

<石薬師地区のまちづくり将来像>

文化と歴史が香り 安全・安心で笑顔と活気があふれるまち

<まちづくりの目標>

地域自治活動部

魅力ある地域づくりと地域力の向上

総務広報部

お届けします明るく楽しい話題と情報

福祉部

地域の誰もが自分らしく生きられる福祉力の向上

環境部

生活環境の維持・保全と景観の向上

スポーツ振興部

スポーツとふれあいを楽しんで元気いっぱいのもちづくり

青少年育成部

地域みんなで「石っこ」の育成支援

歴史文化部

わがまち石薬師の歴史と文化を学び郷土愛を育む

地域安全部

安全で安心して暮らせるまち石薬師地区の実現

地域自治活動部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域自治活動部は、石薬師地区19自治会の会長による専門部である。各自治会それぞれの活動での情報や課題の共有、協働を行うが、令和2年から始まった、新型コロナの影響も大きく、各自治会とも地区の行事が取り止めや縮小となり、十分な活動が出来なかった。 ・住民の意識が多様化し、自治会への期待、魅力が感じられなくなり、地域の結束力が弱まっている。 ・高齢化が進み、自治会の担い手の減少が多くの自治会から、課題として上げられたが対応が出来なかった。 	<p><取り組み></p> <p>地域の生活上の問題解決のために住民の協力が不可欠である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域づくりへの住民参加の推進に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・各自治会からの課題の解決に向け、相談体制、支援体制の構築 ・自治会役員の後継者不足についての情報収集や行政への支援要望 ・高齢者等への支援事業の検討を、関係専門部と連携し推進 2.「自助、近助(お隣)、共助(自治会間)、公助」を学習し、安全で、誰もが“住みやすいまちづくり”を目指し、自治会活動を継続する。 3.他専門部と連携し、地域の魅力を活かす取り組みを実施する。
--	--

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
地域づくりへの 住民参加の推進	自治会の課題に対する 相談・支援体制の構築	自治会役員業務の整理	役員業務のマニュアル作成	確認・改訂	➡
		相談体制構築	試行	実施	継続
		要望事項の把握・整理	➡	➡	➡
	後継者発掘・人材育成	情報収集及び行政への 支援要望	➡	➡	➡
	ボランティアなどの 支援事業	支援事業検討	支援事業試行	支援事業実施	支援事業継続
魅力ある地域づくり と地域力の向上	自治会活動の継続	地域とのつながり 強化	活動継続	➡	➡
	魅力を活かす 取り組み	他専門部と連携し 地域の魅力発見・創造	地域の持つ強みを 活かす活動	地域の魅力を 紹介・発信	➡

総務広報部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな活動資金の確保の活動が出来なかった。 <p>①協賛金の確保：事業所などへ周知・依頼 ②助成金等の調査：コミュニティビジネスの調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体行事の提案 コロナの影響により、R2～3年は実施出来ず。 R4年はホースパーク桜まつりのみ実施。 R5年は全事業実施。 	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石明協だよりの発行 ・情報伝達ツールの拡充 各部単位で情報更新することにより、最新情報を住民へ提供する、そのための枠組みづくりを行っていく。 ・財政の安定化 有料広告やコミュニティビジネスを調査、研究し、新たな財源を確保する。 ・全体行事の提案 石明協の3大事業を役員会へ提案する。 (ふれあいフェスティバル、ウォークラリー、ホースパーク桜まつり)
---	--

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
石明協だよりの発行	年4回	年4回	➡	➡	➡
情報伝達ツールの拡充	HPに各専門部のページ開設	取り決め事項の策定 各部のHP担当への教育 実施可能部から順次 各部での更新を始める	各部のHP担当への教育 実施可能部から順次 各部での更新を始める	➡	➡
	SNSの活用	アカウント取得 HPとのリンク	➡	➡	➡
・財政安定化	新たな財源の確保	他まち協の状況調査 石明協で実施可能な 財源確保方法の検討 及び実行	石明協で実施可能な 財源確保方法の検討 及び実行	➡	➡
・全体行事の提案	3大事業の提案	年3回	➡	➡	➡

福 祉 部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <p>令和2年度～3年度はコロナ禍、高齢者が参加する行事等は予定していた事業がほとんどできなかったが、令和4年度からは少しずつ計画を再開し、5年度からは住民の健康増進事業、住民相互のふれあい活動への協力等、ほぼ計画を継続できるようになってきている。</p>	<p><取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者等が災害・緊急時に円滑な避難行動ができるように、関係機関と協働して研修を行う。 2 支援が必要な高齢者等が地域で安心して暮らせるように、助け合いの支援をする。 3 子どもたちが安心安全に通学できるように見守る。
--	--

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
災害緊急時の安心安全を高める活動	関係機関と協働して研修	関係機関との研修 避難所 場所 P R	避難所までのコース 危ない所がないか調査 防災訓練	マップ作り 防災訓練	関係団体等と話し合い 事業化
暮らし支え合いの活動	高齢者等の生活向上を図る	暮らしまかせて支援事業の取り組みへの協力	ニーズの把握と内容の見直し		活動の評価と今後の課題検討
子ども対象事業	あいさつ運動	朝・放課後見守り 地域にも協力	通学路調査（危険場所）	マップ作り	学校との連携を深め 何かあれば話し合い

環境部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化活動として石薬師小学校通学路のゴミ拾いを計画し備品等の準備まで行ったが、コロナウイルスの為に中止となった。 ・県道沿いの花壇（2か所）の維持管理を集中し実施したため、他箇所（卯の花街道等の）花壇整備まで実施出来なかった。 ・コロナウイルスの影響で活動範囲が縮小され空き家の調査/活用まで実行できなかった。 	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道沿いの花壇の維持管理に加え、他ヶ所についても管理し地域環境の美化強化をおこなう。 ・空き家の実態調査を行い活用方法を所有者と協議し活用方法の構築及び仕組みの整理を行う。
---	--

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
生活環境の保全	国道沿い花壇の維持管理	通年で維持管理を実施	➡	➡	➡
	花壇整備個所の拡大	新規・現状調査	実施検討	実施	➡
空き家の調査と地域の活性化	空き家の活用方法の検討	現状調査と仕組みの整理	整理	➡	➡

スポーツ振興部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2、3、4年度とコロナ影響により開催不可。 ・令和5年度にようやくコロナ影響の緩和から開催出来たが、参加人数は50人程度とコロナ前の半分以下の状況となり、コロナ影響を気にしながらの開催状況であった。 ・コロナ影響により、スポーツの開催が何も出来なかった。 	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区大会の継続を前提としながら地区対抗方式の在り方やチーム編成の方法など検討していく。 ・誰もが参加出来るニュースポーツの取り込みを検討する。 ・鈴鹿市スポーツ推進員など関係団体と連携を取り、スポーツの推進とイベントの開催など連携を進めていく。
--	---

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
地区大会などの内容の検討	競技種目再検討 チーム編成の検討	意見の調査・集約	方向性の検討	新たな方法提案	試行
誰もが参加出来るスポーツイベント	軽スポーツの紹介と実施	軽スポーツの調査・研究	軽スポーツ大会の試行	軽スポーツ大会実施	
関係団体との連携	事業の紹介と参加	鈴鹿市の大会紹介 小学校施設開放のPRと活動紹介		鈴鹿市の大会紹介 小学校施設開放の活動参加	

青少年育成部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染拡大により、石明協全体的に活動休止状態となっていた。 ・他専門部との連携不足により、事業計画の日程調整が難しかった。 ・部長はじめ部員が他役員（石明協以外も含め）の兼務も有り思うように活動できなかった。 	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナも治まりつつあるので、積極的に事業計画しその情報を発信していく。 ・他専門部との連携を密にし、計画日程調整を早めに行う。 ・事業計画にあたり、執行部の協力を仰ぎながら計画を進める。
--	--

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
安心・安全な環境づくり	・通学路の点検と見守り	・通学路の安全点検 ・見守り隊の情報共有	➡	➡	➡
地域での子育ての風土づくり	・保護者・住民向け講習会及び交流会	・さつまいも苗植え体験 ・さつまいも掘り体験	➡	➡	➡
子どもの居場所づくり	・放課後子ども教室	・環境とウミガメ出前講座	・出前移動事業館（こどもの城） ・凧作り親子教室	・環境とウミガメ出前講座	・出前移動事業館（こどもの城） ・凧作り親子教室

歴史文化部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石薬師小学校に設けられた郷土資料室を原則月1回開けているが、来訪客がほとんどない。（フェスティバルの際は多数の来訪） ・庄野まちづくり協議会開催のウオークラリーに当地区の名所旧跡を案内。他地区との協働ができた。 ・部活動のPRを多くして、新部員の入部を増やす。 ・月1回の部会では、部員の発表・発言が多く開始時間を早くしても収まらないほど活発。 	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・[郷土資料室]の整理整頓、清掃、授業での利用、月1回の一般開放 ・[石薬師地区歴史再発掘]小冊子を第1刊から第4刊まで発行。各自治会へ回覧、地区センター・信綱記念館などに配置している。 ・地区内の「名所旧跡案内板」を改修・修繕して、新たに3カ所に設置。 ・新たに地区の郷土料理を再発掘して、その料理を作り試食。小冊子に掲載 ・鈴鹿の方言の調査と冊子への掲載
--	---

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
歴史再発掘	新たな情報をレポート小冊子の刊行	「石薬師地区の歴史再発掘-VI」の発刊	戦時中・戦後の石薬師の再発掘	地区発展の推移	産業発展の推移
郷土資料室	資料室の活用 地域サロンに活用	授業での活用 展示物の内容充実 地域への周知活動	授業での活用充実 展示物の内容充実 地域への周知活動	➡	➡
文化の考察と活動	石薬師地区の文化活動への参画	地区の文化の考察 公民館の文化活動	文化の考察と整理 公民館の文化活動	文化の考察と発信 公民館の文化活動	他地区文化との照合 公民館の文化活動
人材の発掘・育成	歴史の再発掘、文化の発展を推進	活動への参画と人材の発掘・育成	➡	➡	➡

地域安全部

令和2年～5年度の反省と今後の取り組み

<p><反省></p> <p>地域安全部は、各関係機関と連携を図り、安全で安心して暮らせる街の実現を目指して活動をしてきましたが、新型コロナの影響も大きく当初計画していた研修及び訓練の多くが中止や縮小となり十分な活動が出来なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自治会の協力により集落間の防犯灯の増設はほぼ実現できたが公園・駐車場等の調査が進んでいない。 	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 石薬師地区は、比較的高台にあり地盤も強固で安定しているところが多いことから災害も少なく防災意識が希薄になっているため、訓練及び研修等でさらなる防災意識の高揚を図ること。 防災・減災対策として、住宅の耐震化や家具の固定化による転倒防止を推進する。 地域ぐるみで防火・防災・防犯・交通事故防止に取り組む。
--	--

アクションプラン	テーマ	具体的な取り組み内容			
		令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
地域防災力の強化及び犯罪のないまちづくり	自主防災研修の開催 ・自主防災隊合同訓練 ・自主防災隊長研修	各年1回	➡	➡	➡
	タウンウォッチング及び 図上訓練 (DIG)	年2回 (2自治会)	➡	➡	➡
	街路灯及び防犯灯の増設	駐車場・公園等について調査を実施	調査の継続及び各関係機関に要望	➡	➡
	防犯研修の開催 ・特殊詐欺防止講習会 ・防犯対策講習会	各年1回	➡	➡	➡

【参考資料】

地域計画策定メンバー

石薬師地区明るいまちづくり協議会 令和5年度役員会

山田 雅一	会長	川北 淳二	地域安全部長
多田 愛作	副会長兼地域自治活動部長	永戸 智子	書記
藤井 尉	副会長兼総務広報部長	雨宮 章弘	会計
野田うた子	福祉部長	小辻 一博	理事
谷口 光男	環境部長	川北 裕	理事
山崎 武	スポーツ振興部長	實義 幹夫	コーディネーター
古市 治	青少年育成部長	岩谷 薫	事務局長
山下 和男	歴史文化部長		